

中国の地域経済発展と設備投資

一橋大学 于 毅 波

1978 年以来、中国経済が目覚ましい成長を遂げている。このような経済パフォーマンスは、東南アジアの新興工業国家と同じように大規模な投入の増大のみによって達成されていたのであろうか。また、それは中央政府の主導によって実現されていたのか、あるいは地方の情報・地方市場メカニズムによる効率性及び地方間競争というインセンティブに支えられていたものであろうか。本稿の目的は、パネルデータにより各地域の生産効率を推計して中国経済発展の要因を分析することにある。こうした作業から、今後中国の全国的な市場メカニズムの効率性を利用した成長パターンへ移行するための、政策的指針の手掛かりを得られることが期待される。

従来の地域分析では、地域区分は主に地理的位置に基づいて行われており、30 の省・直轄市・自治区を沿岸部・中部・西部の三大地帯に分けている。確かに中国の経済発展は地理的位置とは高い相関関係を持っているが、地理的位置のみで各地域の特徴を十分に捉えているとは言い難い。このため、本稿では、まず各地域の経済特徴を多変量分析で総合的に評価して地域区分をクラスリングする。次に、各地域の特徴を明確に考慮して、クラスター区分結果に基づきその生産関数を推計して生産要素投入増大と生産効率性改善の効果を評価する。

改革・開放以降でも、投資主導型の経済成長が各地域で追求されてきた。また、地域の均衡発展を達成するため、中央政府は財政手段によって経済発達地域から未発達地域へ所得再配分を行っている。しかし、地域によってその経済パフォーマンスは相当なバラツキがみられる。資金移動も、中央政府主導による所得再配分と正反対方向に流れている。併せて、設備投資の資金調達ルートとその資金運用効率性は各地域の経済発展に大きな影響を及ぼしていると思われるので、最後に各地域の生産効率改善への設備投資の効果を理論的に分析する。